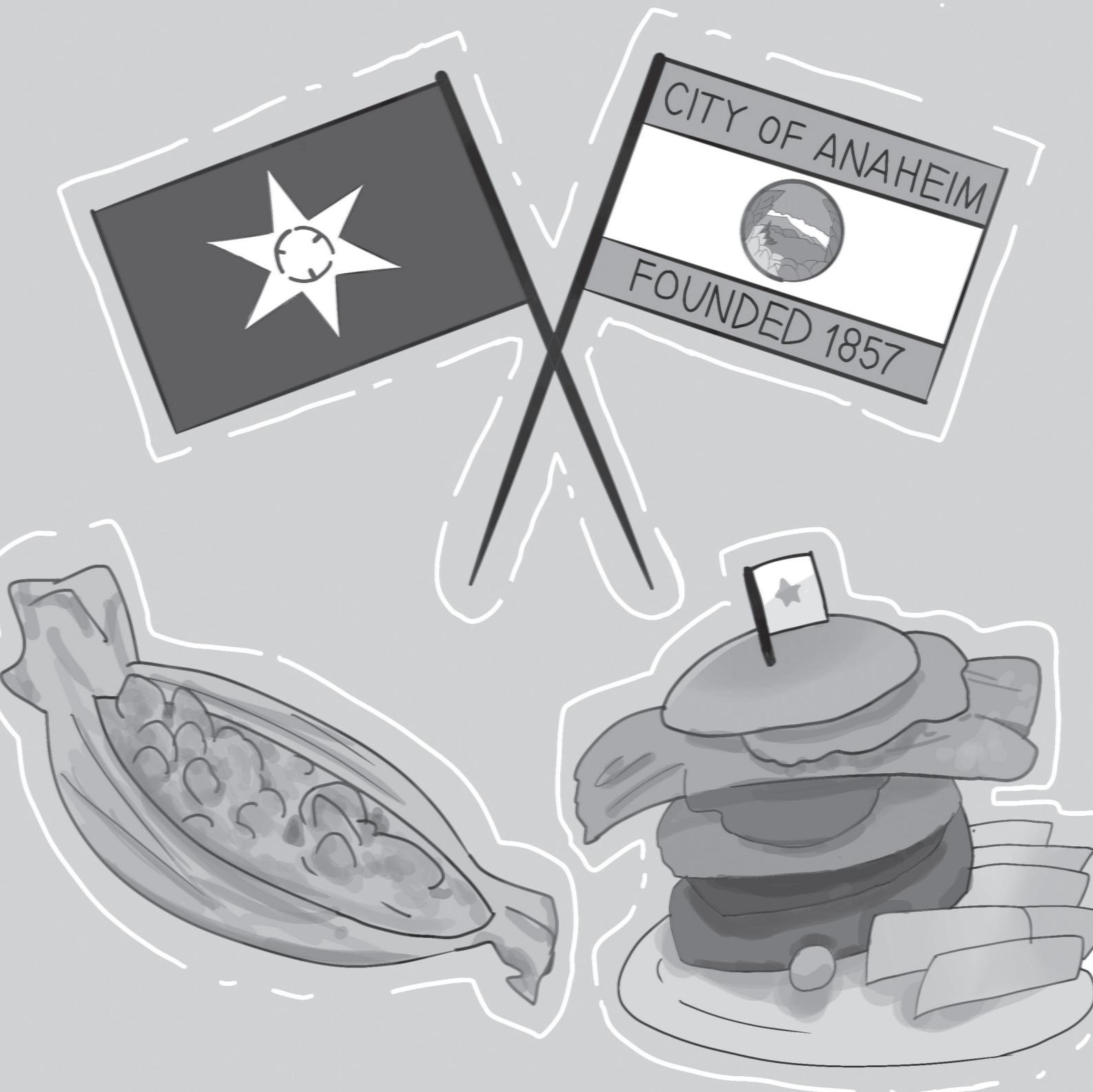


水戸市学生親善大使

2025



はじめに

公益財団法人水戸市国際交流協会
理事長 阿部 真也

水戸市の代表として、令和7年度の水戸市学生親善大使がアメリカの文化と歴史を学び、相互理解と友好親善の目的を果たして、無事帰水いたしました。小池祐一先生を団長とし、8月8日から8月21日まで、アナハイム市でホームステイをしました。

歴史、文化、言葉の壁を超えて得たアナハイムでの友情、体験、思い出は、これから的人生を豊かなものにすることでしょう。互いに認め合うことができる国際人として羽ばたくためのステップになると、確信しております。

学生親善大使経験者の皆さんには、今回の体験を基にして水戸市の国際交流・異文化理解の促進に寄与されることを期待いたします。

最後に、このプログラムに携わった関係者並びに学生親善大使を受け入れて下さいましたアナハイム市姉妹都市委員会の皆様に、心から感謝申し上げます。

I am very happy to report that all Mito Student Ambassadors in 2025, headed by Mr. Koike, returned to Mito safely. They stayed with families of Anaheim from August 8th to August 21st. They studied American culture and history and deepened their understanding and friendship between both cities.

The friendships and experiences will enrich their lives by helping them overcome the differences in history, culture and language. I am convinced that knowing each other will play an important role in becoming more internationally oriented individuals.

I hope that this experience will motivate the student ambassadors to contribute to promoting international exchange and cross-cultural understanding in Mito.

In closing, I would like to express my gratitude to all of the people concerned in this program, both living in the City of Anaheim and the City of Mito. Also many thanks to the members of the Anaheim Sister City Commission for hosting our students. Thank you very much.

Shinya Abe, President
Mito city International Association

目次 -CONTENTS-

この報告書は、水戸市学生親善大使 6 名が、アナハイム派遣後に作成・編集しました。

～This report was created by the 2025 Mito Student Ambassadors.～

1. 令和 7 年度水戸市学生親善大使派遣事業概要	i
Summary of the 2025 Mito Student Ambassadors Program	
2. 令和 7 年度水戸市学生親善大使名簿	ii
List of the 2025 Mito Student Ambassadors	
3. 派遣日程	1
Schedule	
4. 派遣前の様子	2
Photos before leaving for Anaheim	
5. 日誌	3-9
Diary	
6. ホストファミリー紹介	10-12
Our Host Families	
7. 感謝の言葉	13
Words of Appreciation	
8. 報告書	14-26
Reports	
9. 参考資料	27-30
Background Information	
10. 編集後記	31
Editorial Note	

令和7年度水戸市学生親善大使派遣事業概要

1 目的

水戸市内の学生を水戸市の国際親善姉妹都市であるアナハイム市へ派遣し、海外でのホームステイを通して国際的な視野に立つ人材を育成するとともに、両市の相互理解と友好親善を深める。

2 主催

公益財団法人水戸市国際交流協会

3 共催

水戸市、水戸市教育委員会

4 概要

- (1) 派遣期間 令和7年8月8日（金）～8月21日（木）（14日間）
- (2) 派遣先 アメリカ合衆国 カリフォルニア州 アナハイム市
- (3) 派遣人数 8名（学生親善大使6名、団長1名、随行職員1名）
- (4) 内容
 - ア アメリカ合衆国及びアナハイム市の歴史や文化等の研修
 - イ 英語研修
 - ウ 関係機関、施設等の訪問・見学
 - エ 水戸市の紹介
 - オ ホームステイを通しての市民間交流（アナハイム市姉妹都市委員会承認の市民ボランティア宅にホームステイ）
 - カ 市役所表敬訪問、姉妹都市交流の推進
 - キ その他

5 スケジュール

7月 6日（日）13:30-17:00	結団式 第1回事前研修
7月 20日（日）13:30-17:00	第2回事前研修
7月 27日（日）13:30-17:00	第3回事前研修
8月 3日（日）13:30-17:00	第4回事前研修
8月 8日（金）～8月21日（木）	アナハイム市へ派遣（ホームステイ）
9月 7日（日）13:30-17:00	事後研修

令和7年度水戸市学生親善大使 名簿

List of the 2025 Mito Student Ambassadors

【学生 : Students】

氏名 NAME	学年 Grade	ホストファミリー Host Families
海老根 理咲 Risa EBINE	高校1年 1st Grade at Senior High School	フラナガン家 Flanagan Family
大津 秋仁 Akito OTSU	高校2年 2nd Grade at Senior High School	バレンシア家 Valencia Family
田畠 未来 Mirai TABATA	中学3年 3rd Grade at Junior High School	ベラスケス家 Velasquez Family
南指原 礼人 Ayato NAJIHARA	中学3年 3rd Grade at Junior High School	ベンダー家 Bender Family
西尾 真 Makoto NISHIO	高校1年 1st Grade at Senior High School	バレンシア家 Valencia Family
横倉 凛々花 Ririka YOKOKURA	高校2年 2nd Grade at Senior High School	ベラスケス家 Velasquez Family

【引率 : Chaperones】

小池 祐一 Yuichi KOIKE	水戸市立柳河小学校教諭 English Teacher at Yanakawa Elementary School
樺村 富士夫 Fujio KASHIMURA	公益財団法人水戸市国際交流協会 Mito City International Association

令和7年度 水戸市学生親善大使 派遣日程

- 8月 8日 (金) 11:30 集合 (水戸市国際交流センター2階ロビー)
12:00 出発
17:20 成田発 ((日本航空) JL62便)
・・・・・ 国際日付変更線通過 ・・・・・
12:05 ロサンゼルス着
17:30 アナハイム市到着後歓迎会, 各ホストファミリー宅へ
- 8月 9日 (土) 各ホストファミリー宅
- 8月 10日 (日) 各ホストファミリー宅
- 8月 11日 (月) 英語研修, 市役所見学, 変電所見学,
ブルックハーストコミュニティセンター (青少年センター)
訪問
- 8月 12日 (火) 英語研修, 消防署見学, 水戸橋見学
- 8月 13日 (水) サイプレス高校訪問, 英語研修, 市役所地域サービス部訪問
- 8月 14日 (木) ウォーカー中学校訪問, 英語研修
- 8月 15日 (金) ディズニーランド
- 8月 16日 (土) 各ホストファミリー宅
- 8月 17日 (日) 各ホストファミリー宅
- 8月 18日 (月) メルカド・ゴンザレスで買い物,
エンゼルスタジアムで野球観戦
- 8月 19日 (火) ウェスタン高校訪問, さよならパーティー
- 8月 20日 (水) 13:40 ロサンゼルス発 ((日本航空) JL 61便)
・・・・・ 国際日付変更線通過 ・・・・・
- 8月 21日 (木) 16:35 成田着
19:00 水戸市国際交流センター着

派遣前の様子

Photos before leaving for Anaheim



結団式
Inauguration Ceremony



事前研修（第1回目）
First Orientation Session



アナハイム市についての学習
Learning about the City of Anaheim



A bit of Japan の練習
Rehearsal for “A bit of Japan”

4日間の研修にて、大使としての心構えを高め
アナハイム市へ向けて出発



日誌 Diary

【DAY 1】 8月8日（金）

(1日の行動)

- 11:30 集合
- 12:00 出発
- 17:20 成田国際空港発
- 12:05 (同日) ロサンゼルス国際空港着
- 15:00 リトルトーキョーで昼食・観光
- 16:25 ダウンタウンコミュニティセンター
(Down Town Community Center: DTCC)着
歓迎会・ホストファミリーと顔合わせ
- 17:30 解散



成田空港にて

約11時間のフライトは出発前の期待もあって、僕にはあつという間に感じられました。飛行機を降りて、エントランスに掲げられた大きな星条旗を目にしたとき、初めて「本当にアメリカに来たんだ」と実感しました。

空港を出た後は、リトルトーキョーという場所に向かいました。日本の食品を扱うスーパーやお土産ショップが立ち並び、その中でも一際目を引いたのは巨大な大谷翔平選手の壁画です。テレビで見慣れた光景と重なり感動しました。

時間の都合でハリウッドを訪れるることはできませんでしたが、車窓から眺める街の風景や、カラつとした気候など、日本との違いを肌で感じ、驚きの連続でした。

時差ボケを抱えながら、アナハイム市のコミュニティセンターへ向かうとホストファミリーが迎えてくれました。少し緊張していましたが和やかな雰囲気の中、各家庭に分かれていきました。

ホストファミリーとの初めての対面を終えた後、同じ家庭に滞在することになった僕たち二人（大津君と筆者）はアカデミー賞授賞式の会場として知られる「ドルビー・シアター」へ案内してもらいました。そのショッピングで、日本語を話せる店員さんと出会い、とても親近感が湧きました。

その後現地の人気ハンバーガー店「In-N-Out Burger」で夕食をとりました。初日の疲れた体には少々重かったです、ジューシーでとても美味しかったです。日本とは違い、調味料

がセルフサービスで、ソフトドリンクがお代わり自由なことに驚きました。

ホストファミリーに持っていくお土産の選択に悩んでいた時、リクエストされたのは抹茶チョコでも、和柄の扇子でもなく、電子楽器のオタマトーンとミニチュアの鳥居でした。日本のサブカルチャーが海外にどれほど浸透しているかを実感した出来事でした。【Makoto】



ホストファミリーと初顔合わせ

【DAY 2】 8月9日（土）

(1日の行動)

終日 ホストファミリーと過ごす

朝、目を覚ました場所はホテルでした。実は、ホストファミリーの家に到着した後すぐ、ラスベガスに出発したのです！ベッドに入ったのは深夜1時でした。移動の疲れもあり、朝はゆっくり過ごした後、Grand Canal Shoppes at The Venetian でショッピングを楽しみ、夜には MGM Grand Garden Arena で Ghost というロックバンドのライブを楽しみました。

1万5千人を超えるファンで埋めつくされた会場の迫力は目覚ましいものであり、興奮しました。



ラスベガスの Grand Canal Shoppes at The Venetian



MGM Grand Garden Arena でロックバンド Ghost (スウェーデン出身) のライブ

【DAY 3】 8月10日（日）

(1日の行動)

終日 ホストファミリーと過ごす

前日、コンサートが夜遅かった影響もあり、この日も起床は遅くなりました。朝食をとった後、ホストファミリーからの勧めで日本の家族に向けてポストカードを書きました。たった2日しか滞在していないのに日本が懐かしく感じられ、不思議な気持ちでした。

午後はアナハイムへの移動で1日を終えました。【Risa】



ホストファミリーとの食事



家族へ書いたポストカード

【DAY 4】 8月11日（月）

(1日の行動)

- 8:30 DTCC 集合
- 10:00 アナハイム市役所の電気
供給部見学
- 11:15 変電所見学
- 11:30 ソーラーカーレース
- 14:00 昼食
- 15:30 青少年センター訪問
- 17:30 解散



アナハイム市議会議場



現地の高校生との交流

英語の授業の後、アナハイム市役所の電気供給部とアナハイム市議会議場を見学して、近くの変電所を訪れました。午後は青少年センターで現地の学生と交流しました。送電線に風船が引っかかり停電が起きる話や、議員席に座る体験が印象的でした。アクティビティや会話を通して、生きた英語やアメリカの文化に触れ、日本の良さや異文化交流の大切さを実感する、学びと感動にあふれた1日になりました。

【DAY 5】 8月12日（火）

(1日の行動)

- 8:30 DTCC 集合
- 10:00 アナハイム市第5消防署
見学
- 12:00 昼食
- 13:00 アナハイムショア見学
- 14:40 DTCC お礼状作成
- 17:00 解散



アナハイムショアの住宅地に架かる水戸橋



消防ホースの消火体験

英語の授業で消防署について学び、実際の見学では仮眠室やトレーニングルームなどを見て、消防士の働く環境や体力のすごさに感動しました。

昼食の「In-N-Out」のバーガーは絶品で、午後に訪れた「アナハイムショア」という住宅地には水戸橋もあって日本とのつながりを感じ、あたたかい気持ちになりました。学びと発見にあふれた、充実した1日でした。【Mirai】

【DAY 6】 8月13日(水)

(1日の行動)

- 7:15 DTCC 集合
- 8:00 サイプレス高校見学
- 15:30 アナハイム市役所見学
- 17:00 解散



サイプレス高校では、案内してくださった現地の学生たちがとても親切で、授業後に彼らと食べたアイスも格別でした。

その後の市役所見学では、スタッフが自分たちのデスクをデコレーションしている様子を見て、日本との働き方の違いを感じました。

【DAY 7】 8月14日(木)

(1日の行動)

- 8:00 DTCC 集合
- 9:00 ウォーカー中学校見学
- 15:30 英語研修
- 17:00 解散



ウォーカー中学校では、日本よりも早いうちから教材のデジタル化が進んでおり、ほぼ全ての授業をパソコンで行っていました。また、不審者対策などの防犯のため教室の中の様子が外から見えないようにになっており、とても驚きました。

【Ayato】

【DAY 8】 8月15日（金）

(1日の行動)

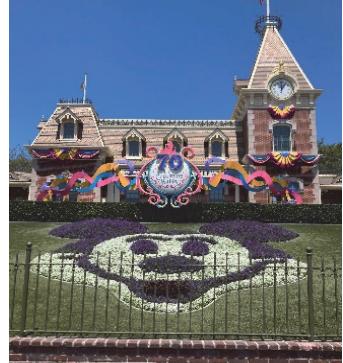
- 8:00 DTCC 集合
- 8:15 ディズニーランドへ向かう
- 9:00 ディズニーランド着
- 20:00 ディズニーランド発
- 20:45 解散



カチューシャでベストショット！

ディズニーランドでは、アメリカのアミューズメントパークならではの温かい接客や雰囲気を楽しみながら、ホスピタリティのあり方について学ぶことができました。

一方で、スタッフの英語はとても速く、スラングも多かったため、聞き取るのに苦労しましたが、現地の英語にふれる良い機会になりました。



ディズニーランド・パーク

【DAY 9】 8月16日（土）

(1日の行動)

終日 ホストファミリーと過ごす

午前中はホストブラザーと一緒に遊びました。ゲームをしている中で、日本のゲームが好きだと聞き、とても嬉しかったです。その話題のおかげで、その後の雑談も楽しく続けることができました。

午後はホストファミリーと競馬場に行き、アメリカならではの雰囲気を体験することができました。



競馬場



競馬場

【Akito】

【DAY 10】 8月17日（日）

(1日の行動)

終日 ホストファミリーと過ごす

私たちは、車で1時間近くかけてハリウッドに連れて行ってもらいました。写真でしか見たことの無かったハリウッドサインや、著名人たちの手形や名前が刻まれた地面には多くの観光客が集まっていました。アメリカらしさを感じられた1日でした。



ハリウッドサイン



TCL チャイニーズ・シアター

【DAY 11】 8月18日（月）

(1日の行動)

終日 ホストファミリーと過ごす

メルカド・ゴンザレスではメキシコ料理のタコスを頂き、店内でチュロスなどの試食をしながら説明を受けました。

エンゼルスタジアムではプラチナムスイートルームで観戦させて頂きました。途中ファウルボールが私たちのボックスに飛んできて盛り上りました。
みんな夢中で野球を楽しんでいました！



メルカド・ゴンザレスではメキシコ文化とメキシカンフードを体験



エンゼルスタジアム

【Ririka】

【DAY 12】 8月 19 日 (火)

(1日の行動)

- 8:00 DTCC 集合
- 9:20-14:00 ウェスタン高校訪問
- 14:00 ウェスタン高校発
- 14:30-17:30 サヨナラパーティーの準備
- 17:30-19:30 サヨナラパーティー



サヨナラパーティー

アナハイムから水戸へ帰るまであと 1 日。ウェスタン高校では、実際の授業を受ける機会が多く、親近感を感じられた。サヨナラパーティーは今まで出会った多くの方々が集まってくださり、別れがより悲しくなった。



サヨナラパーティー
での福笑い

【DAY 13・14】 8月 20 日 (水)・21 日 (木)

(1日の行動)

- 8:45 DTCC 集合
- 9:15 DTCC 発
- 13:35 ロサンゼルス国際空港発
一日付変更線－
- 16:35 成田国際空港着
- 20:00 水戸市国際交流センター着



帰りの機内



帰りの機内から

アナハイムに 2 週間滞在し、あれほど親切にしてくださったホストファミリーとの別れはとても寂しかった。

親元を離れて過ごしたアメリカでの経験は一生忘れられない思い出になった。【Akito】

ホストファミリー紹介

Introduction of
our Host Families



Thank you for the

wonderful
memories!



Dear my host family,

I am so thankful for everything you did for me. Because of you, I was able to have an unforgettable life during my time in America. I was so happy when you included me in your family and said, "You are Risa *Flanagan*!" That left a deep impression on me. My English may not have been very good, but I really appreciated how you spoke slowly and waited for me to express myself. I truly hope we can meet again someday!

Risa



Dear my host family,

I will never forget these days. My life with you was very fun! I liked your food, and I enjoyed the amusement park with you. Your home was very comfortable for me. I'm grateful for all of your help throughout the trip. Thank you for everything.

Akito



Dear my host family,

Thank you so much for your kindness during the two weeks I stayed with you. Every moment I spent with you was so much fun and has become an unforgettable memory. I learned so much from you—not only English, but also your lifestyle and culture. Above all, I really enjoyed talking with you in English. I love speaking English, so it was a truly exciting and happy experience for me. I hope to see you again someday.

If you ever have a chance, please visit Mito in Japan—I would be so happy to welcome you! Thank you very much again!

Mirai



Dear my host family,

Thank you so much for welcoming me. I am very happy that you took me many places, like to see my host father's company plane and the Dodgers game. And thank you for always being kind to me, even though my English isn't very good. The time I spent with you is my treasure. I look forward to seeing you again someday.

Ayato



Dear my host family,

Thank you so much for always treating me with such kindness. The time I spent with you was truly meaningful and unforgettable. Even though my English was not very good, you always spoke to me at my level, which I deeply appreciated, especially since I had been worried about whether I could communicate well. I believe that gaining a new family in America was the greatest treasure of this program.

Thank you from the bottom of my heart.

Makoto



Dear my host family,

Thank you so much for welcoming us for two weeks! I had such a wonderful time. The delicious meals you always made and the fun moments we shared always bring a big smile to my face when I think about them. I'm looking forward to seeing you again someday. Thank you, truly, from the bottom of my heart!

Ririka



アナハイムへの感謝の言葉

—Words of Appreciation to Anaheim—

令和7年度水戸市学生親善大使
2025 Mito Student Ambassadors

私たちがアナハイムに滞在したこの2週間は、まるで風のように過ぎていきました。

しかし、私たちはその2週間で、一生の宝物となるような経験をたくさんしました。ホストファミリーとの交流に始まり、消防署見学、現地の学生との交流、ディズニーランド、エンゼルスの試合観戦…。その中で私たちが体験したこと全ては、今後の私たちの人生に大きく関わっていくことでしょう。

私たちが経験した全てのことは、たくさんの人の支えがあって達成することができました。その中でも特にお世話になった方々に、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。まず、私たちのホストファミリーへ。2週間にわたり私たちを家族のように優しくしてくださり、ありがとうございました。次に、テイラーとテレサへ。テイラーは、バスの送迎や緻密なスケジュール管理で、2週間ずっと縁の下の力持ちとして私たちを支え続けてくれました。テレサは、不安だった私たちに様々なことを教えてくれたり、一緒にUNOで遊んでくれたり、母のように、友だちのように温かく接してくださいました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、私たちのホストファミリーをはじめ、アナハイム姉妹都市委員会の皆様、ダウンタウンコミュニティセンターの皆様、アナハイム市役所の皆様、サイプレス高校の皆様、ウェスタン高校の皆様、ウォーカー中学校の皆様、そして、私たちが今回の研修でお世話になった全ての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました！

The two weeks we spent in Anaheim flew by. However, during that time, we experienced many events that will become lifelong treasures. From spending time with our host families, to visiting a fire station, interacting with local students, going to Disneyland, and watching an Angels game—everything we experienced will undoubtedly have a lasting impact on our lives.

And every single one of those experiences was made possible by someone's support. We would like to take this opportunity to express our gratitude to those who have been especially kind to us. First, to our host families: thank you for treating us like family with such kindness. Next, to Taylor and Theresa: Taylor, who supported us all throughout our trip with transportation and meticulous schedule management; and Theresa, who taught us many things though we were anxious, and treated us like a mother and a friend—thank you both so very much.

Finally, we would like to express our heartfelt gratitude to the Anaheim Sister City Committee, the staff at Anaheim City Hall and the Downtown Community Center, Cypress and Western High School students, Walker Middle School students, and everyone else who supported us throughout this program. Thank you so much.

報告書

REPORTS



Thank you so much!

We will never forget the great
experience in Anaheim!

夢への冒険 —Adventure to the dream—

海老根 理咲
Risa Ebine

まず初めに、この派遣に携わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。

2週間の滞在は、毎日が濃密で、多くの学びを得ることができました。

私は将来、医師になるという目標を持っています。「チーム医療」の一員として働くためには、さまざまなバックグラウンドを持つ人々と協働し、彼らを深く理解する姿勢が欠かせません。今回の派遣に合格したからには、水戸市とアナハイム市の架け橋となることを意識し、人と人とのつながりを大切にしながら、多様な視点で物事を見る力を大きく伸ばしたいという思いで、このプログラムに参加しました。

渡米前は、自分の気持ちや考えをうまく伝えられるかどうか、とても不安でした。しかし実際に現地の方々と接してみると、皆さん、とても親切で積極的に話しかけてくださったり、私の拙い英語を理解しようとしてくださったり、とても安心して過ごすことができました。

私の将来の目標をホストファミリーに伝えると、「日本で働くの?」「何科の医師になりたいの?」と興味を持って質問してくださり、さらにはホストブラザーの友人である医学生の方を紹介していただき、とても嬉しかったです。気づけば自ら行動することに臆病にならず、人とコミュニケーションをとることを心から楽しめるようになりました。「人を理解する」ということ。それはとても難しく、根気のいるものです。しかし、この派遣を通して、誰かを「理解しよう」と思う気持ちこそが何よりも大切なことだと学びました。「伝わらなかつたらどうしよう」「話すことが怖い」と思っていては、何も始まりません。人を理解したいという気持ちは、必ず相手にも伝わります。そして、互いに歩み寄ることで、本当の意味での「他者理解」へと繋がっていくのだと感じました。この学びを、今後の学校生活、そして社会生活にも活かしていきたいと思います。

改めて、アナハイム市のみなさま、水戸市国際交流協会のみなさまに、素晴らしい体験の機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

I would like to sincerely thank everyone who supported this program. These two weeks were full of learning and unforgettable.

My dream is to become a doctor, and through this experience I realized the importance of understanding and connecting with people. Although I was nervous about my English, my host family and the people I met were kind and patient, which encouraged me to communicate more openly. I learned that even imperfect words can build true understanding when spoken with sincerity. This lesson will guide me in my future studies and life.

調査「アナハイム市の医療体制と健康への意識」

海老根 理咲

① 調査動機

私は、現在高校で離島の医療体制について探究を行っている。同様に、アナハイム市の医療について興味を持った。また、他国の医療について理解することは、多様な価値観を理解する人間となるには役に立つであろうと考え、調査を行った。

② 調査方法

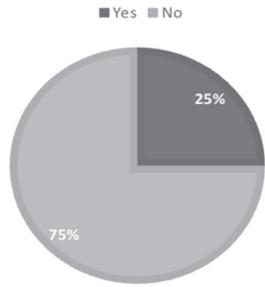
現地で出会った方々に、(1)～(4)の項目についてアンケートの回答を求めた。

- (1) 病院で風邪の治療を受けると治療費はいくらかかるのか
- (2) アナハイム市の医療体制に満足しているか、その理由
- (3) アナハイム市の医療の長所と短所、また改善点
- (4) 自分が健康のためにしていること

③ 結果

(1) 治療費 50～200 ドル程度

(2) 医療体制への満足度



調査対象人数：8人

Yes:満足している

No:不満である

“満足している”と答えた理由として、「今のところ問題を感じたことがない」、“不満である”と答えた理由として、「医療費が高すぎる」、「医療を受けるのにお金を払う必要はないはずだ」とあった。

(3)長所	<ul style="list-style-type: none">・最先端の治療を受けられる
(3)短所	<ul style="list-style-type: none">・医療費が高すぎる・保障が十分でない・お金がない人々の医療アクセスが難しい・医療施設が足りない
(3)改善点	<ul style="list-style-type: none">・医療従事者の不足・待ち時間の長さ・治療費の高さ
(4)健康維持の策	<ul style="list-style-type: none">・適切な食事と運動・歯磨き

また、「医療分野の技術の向上は他の国でも同じことだから長所とはいえない」、「アメリカの医療体制が悪いのは、みんな当たり前に感じている」という意見も散見された。

④ 考察

アナハイム市の医療体制は最先端の技術を持つ一方で、費用の高さや保障の不十分さから、安心して医療を受けられないということが課題である。加えて、人々の評価の基準は技術よりも制度面に置かれていることがわかる。よって、技術革新より社会保障の充実が求められていると考えられる。また、健康への意識は大きな特性は見られず、日常生活の中でできることを実施しているといえる。調査から、「病院へ行く」ことの捉え方の違いに気がついた。水戸市民にとって「病院へ行く」ことは体調の様子を診てもらうことであり、症状に応じた治療を受け、経過観察なども病院が患者に寄り添って進められる。しかし、アナハイム市民にとって病院は重度の症状の際の最終手段という捉え方であり、病院と患者の関係は希薄であるように感じられた。安心して医療を受けられることは幸せなことだと感じた。

苦手意識は挑戦で無くせる —Weak Point Erase with Challenge—

大津 秋仁
Akito Otsu

アナハイムでの 14 日間は、刺激に満ち溢れていた日々でした。

僕は英語に苦手意識がありました。そんな時に両親から「苦手意識をなくすためにアメリカに行って、実際の空気を感じて来ないか」と言われ、この派遣プログラムに参加しました。

アメリカに到着した当初は緊張と不安でいっぱい、ホストファミリーと会っても積極的に話すことができませんでした。そんな僕をホストファミリーは初日からハリウッドまで連れて行ってくれて、楽しませようと案内してくれました。そのおかげで緊張もほぐれ、ホストファミリーと会話を積極的にしようと思いました。拙い英語で話してもしっかりと向き合ってくれたり、相手の話が伝わらず聞き返した時、何度も伝えようとしてくれたり、苦手でも得意でも会話で大切なのは、恐れずに話を聞き続けることだと思いました。

アメリカで学んだことは、自分がこれから物事に挑戦するときの自信につながると思います。帰国後は、失敗を恐れて挑戦を避けるのではなく、失敗から学び、改善を重ねて行こうと決意しました。

アナハイムの日々は 14 日間という人生では 1%にも満たないような短い日々ですが、きっと自分の人生に最も影響を与える出来事の一つだと思います。

この派遣で支えてくれた皆様、本当にありがとうございました。

The 14 days in Anaheim were so meaningful to me. Before the trip, I had an aversion to English as I'm not very good or confident with it. However, my parents encouraged me to go to America to get rid of my discomfort and actually feel the atmosphere there, so I joined this program.

When I arrived, I was so nervous that I couldn't talk with my host family hardly at all. But they took me to Hollywood and guided me around to show me a good time. It eased my tension, and I began to try to talk with them more actively. Although my English was poor and I often used the wrong tense and grammar, they encouraged me to keep trying to express myself. I realized that the most important thing is keep trying to communicate.

I believe that what I learned in America will become a source of courage for me whenever I face new challenges. After returning to Japan, I decided not to avoid obstacles out of fear of failure, but to keep improving by learning from my mistakes. Though my time in Anaheim is less than 1% of my life, it has had one of the strongest impacts. Thank you for everything.

調査「気候による生活と文化の違い」

大津 秋仁

①調査動機

アメリカは日本と違い、空気が乾燥している。自然環境の違いはその社会にいろいろな影響を与える。

人々の生活の違いを調べることで、今、アメリカにある文化の理由を考えることができると思ったため、この調査を行った。

②調査方法

- ・アメリカの伝統を調べる。
- ・ホストファミリーに、乾燥している気候でどのように暮らしているのかを、事前に作ったフォームに答えてもらう。他にもアナハイムで出会った人に答えてもらう。

③調査結果

- ・アメリカの文化を調べる

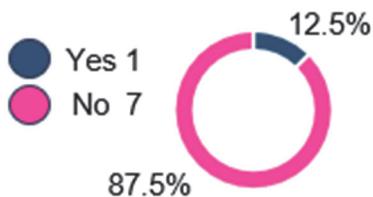
アメリカの食文化は、日本と比べてパンなどの小麦を使った乾いたものをよく食べているとわかった。小麦がよく食べられているのは、アメリカでよく育てられている以外にどんな要因があるのだろう。

- ・アンケート結果

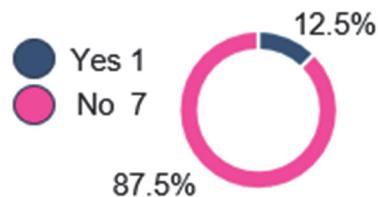
アメリカの人は乾燥している気候の中で身体的影響はないのかをアンケートによって調べて、アメリカの食文化への影響を考えた。

喉に乾燥はあるか(左)と肌の乾燥はあるか(右)

Do you have dryness of throat?



Do you have dryness of your skin



これらのデータから、アメリカの人々は乾燥に強く、日本人よりも乾燥を感じないことがわかる。

④考察

アメリカでは乾燥した気候に適応しているため、日本の和菓子のように水分を多く含む食品よりも、クッキーやハンバーガー、ホットドッグなど、小麦を主原料とした水分の少ない乾燥した食品が好まれる傾向にあると考えられる。

「アナハイムで広がった私の未来」

—The Future that Opened Up for Me in Anaheim—

田畠 未来
Mirai Tabata

この派遣プログラムは、私の人生に大きな影響を与えるものだと感じています。アナハイムに到着した際、現地の人々との関係や食事、言語に大きな不安があり、初日の夜には泣いてしまうほどでした。しかし、ホストファミリーやアナハイムの人々が温かく笑顔で迎えてくれたおかげで、その不安はすぐに解消されました。アメリカの食事は非常に美味しく、食事を通じて現地の文化を実感することができました。英語での会話も初めは緊張しましたが、現地の人々の優しさに励まされ、英語を話すことがもっと好きになりました。さらに、英語を話す自信が持てるようになり、積極的に話しかけることができるようになりました、会話を楽しめるようになったことは、大きな成長だと感じています。

この経験を通じて、私は高校での留学を決心しました。アナハイムで異文化交流の楽しさを実感し、将来は海外の大学に進学し、英語を活かした職業に就くことも視野に入れるようになりました。アナハイム市の皆さんからいただいた励ましが私にとって大きな転機となり、将来への希望が広がりました。

この経験がきっかけとなり、私は自分の可能性を広げるための一歩を踏み出すことができました。異文化交流の大切さや、英語を使って世界と繋がる楽しさを実感できたことは、私にとってかけがえのない宝物であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

This experience had a big impact on me. When I first arrived in Anaheim, I was so anxious about relationships, food, and language that I even cried on the first night. However, the warm welcome from the people I met quickly eased my fears. The food was delicious, and I got to experience the local culture. Though I was initially nervous about speaking English, the kindness of everyone made me more confident as I started enjoying more conversations.

My time in Anaheim has inspired me to study abroad in high school and pursue a career that uses English. The encouragement I received in Anaheim was a turning point, broadening my future possibilities. I'm deeply grateful for the opportunity to connect with the world through this cultural exchange program.

調査「日本とアメリカの睡眠時間の違いについて ～日本とアメリカの中高生を比較して～」

田畠 未来

① 調査動機

OECD（2021年）のデータでは、日本人の平均睡眠時間は7時間22分で加盟国中最も短く、アメリカは8時間51分で最も長い。このデータを見て実際に生活習慣や睡眠に対する意識の違いを調査することで、両国の睡眠時間の差がなぜ生じるのかを明らかにし、日本人の睡眠時間を延ばすためのヒントを探りたいと考えた。

② 調査方法

日本とアメリカの中高生それぞれ10人にアンケートを用いる。

調査項目は、平日の睡眠時間、休日の睡眠時間、睡眠の満足度、睡眠に影響する要因の4つ。

③ 結果

〈睡眠時間の比較〉

対象：中高生

	水戸市の学生	アナハイム市の学生
平日	6～7時間	7時間（人によっては2～3時間の日も）
休日	7～9時間	8時間～9時間
睡眠の満足度	低い	低い
睡眠不足の要因	SNS、学校の課題、ストレス	SNS、学校の課題

④ 考察

特に印象的だったのは、双方に共通して、SNSが睡眠を妨げ、睡眠時間が短くなっていることだ。ホストシスターや日本の中高生から同様の意見が多い。また、日本の中高校生の多くが「十分に寝られていない」と感じており、その原因として「学校の課題」や「ストレス」が挙げられている。これは、受験や成績に対するプレッシャーが強い日本の教育環境が関係していると考えられる。水戸市の学生の平日と休日の睡眠時間の差は小さいが、アナハイム市では大きい。これはアナハイム市の学生の生活はメリハリがあり、器用に時間を使っているということが考えられる。

また、睡眠不足になる要因が同じでも、睡眠時間に差が生じるのは、睡眠に対する意識の違いのせいではないかと感じた。この「睡眠時間に対する意識の違い」とは、睡眠の優先度に対する考え方である。インタビューを通じて、アメリカの学生は、睡眠を「日中の学業、および課外活動のパフォーマンスを最大限に引き出すための健康維持のための要素として、明確に捉えている傾向が見られた。そのため、意識的にほかの活動を調整し、睡眠時間を確保しようとする姿勢が表れていた。一方、日本の学生は睡眠不足を「多忙な学校生活や人間関係の中でのやむを得ない犠牲」として許容する傾向があり、睡眠時間を削ってでも、部活動や課外活動、友人との交流などを優先する意識が高いと感じた。この「睡眠の優先度」に対する意識の差が、結果として、睡眠不足の要因が共通していても、最終的な睡眠時間に差が生じる最大の要因であると考察できる。14～17歳が推奨される睡眠時間は、8～10時間であり、日米ともに多くの人々が必要な睡眠時間を満たせていないということがわかる。

今回の調査を通し、自分自身も夜のスマホの使い方を見直し、睡眠をもっと大切にしたいと思った。

心のコミュニケーション —Communication from the Heart—

南指原 礼人
Ayato Najihara

この 14 日間のアナハイム市でのホームステイは、私にとって、たくさんの学びを得るとしても濃厚な時間となりました。中でも、この 14 日間で一番強く感じたことは、「心の距離」の大切さです。それはウォーカー中学校を訪れたときのことでした。アメリカに来て 6 日経っていたので、英語でのコミュニケーションに少しあはれていましたが、それでも案内してくれた現地の学生とは上手くコミュニケーションがとれず、気まずい雰囲気になっていました。ふと彼のバッグの中に私の大好きな漫画が入っているのを見つけ、彼に「Do you like it?」と聞いたところ、その漫画の話でとても盛り上がり、結果、とても有意義な時間を過ごすことができました。この出来事は、英語に自信がなかった私にとって、外国人とのコミュニケーションにおける考え方が大きく変わることとなりました。そして、大切なのは話せることではなく、気持ちを伝えようとして痛感しました。この出来事の後、私は英語でのコミュニケーションがもっと楽しくなり、最高の経験をすることができました。

最後に、この水戸市学生親善大使派遣事業に携わってくれた皆様、私が水戸市学生親善大使として関わった現地の皆様に、心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました！

My 2-weeks homestay in Anaheim was an incredibly enriching experience that provided me with countless lessons. What I felt most strongly during this time was the importance of connecting in the moment. This happened when I visited Walker Junior High School. By that time, I had already spent a few days in the U.S. and had gotten a little used to communicating in English. However, I still wasn't able to communicate well with the local student who guided me, and it created an awkward atmosphere between us. However, I noticed that he had one of my favorite manga in his bag. When I asked him, 'Do you like it?', he got really excited talking about it, and as a result, we were able to spend a truly meaningful time together.

This experience greatly changed the way I thought about communicating with people from other countries, especially since I had lacked confidence in my English. I realized that what truly matters is not being able to speak perfectly but making the effort to convey my feelings in the moment. After this experience, communicating in English became much more enjoyable for me, and I was able to have an unforgettable time.

Finally, I would like to express my heartfelt gratitude to everyone who was involved in the Mito City Student Ambassador Dispatch Program, as well as to all those I had the pleasure of meeting and interacting with along the way. Thank you very much!

調査「観光戦略を水戸市に活かす」

南指原 礼人

① 調査動機

茨城県は都道府県魅力度ランキングで下位に位置し、観光面で他地域に比べて課題があると考えられており、県庁所在地である水戸市においても例外ではない。一方、アナハイム市は観光業が主要産業の一つであり、世界各地から多くの観光客を集めている。そこで、水戸市とアナハイム市の観光に関する数値的データや、現地の人々の意見を比較することで、水戸市の観光業を活性化させるヒントが得られるのではないかと考え、本調査を行った。

② 調査方法

- ・水戸市とアナハイム市の観光に関する情報を収集し、数値や施策を比較した。
- ・両市の学生（各4名）にアンケートを実施し、観光産業に対する意見を調査した。
〈具体的なアンケート〉
(1)自分の住む市の観光産業は発展していると思うか。(2)そう思う理由はなにか。

③ 結果

■ 両市の観光産業に関するデータ（2022年）

	アナハイム市	水戸市
主要観光スポット	・ディズニーランド・リゾート ・エンゼルスタジアム	・偕楽園 ・千波湖
年間の訪問者数	約2,490万人	約204万人
年間の観光消費額	約60億ドル（約8,800億円）	約136億円
観光PRの方法	・動画や広告 ・国際展示会で海外にもPR	・ウェブサイトやパンフレット中心 ・県内や国内向けがほとんど

引用…アナハイム市観光局(<https://x.gd/n0xgy>)、水戸市ホームページ(<https://x.gd/RrVpm>)

■ 両市の観光産業の発展に対する意見等

- (1) 水戸市の学生（4人中1人が観光産業は発展していると回答）

〔発展していると思う理由〕

歴史館の展示の工夫や、千波湖周辺の新施設など、新しい取り組みが増えている

〔課題〕他地域と比べると発展が遅れている

- (2) アナハイムの学生（4人中3人が観光産業は進展していると回答）

〔発展していると思う理由〕

ディズニーランドなどの資源を活かし、交通整備などを通じて観光客をさらに呼びこもうとしている

〔課題〕観光客の増加による物価高騰や住宅問題など、市民生活とのバランス

④ 考察

以上の結果から、水戸市がさらに観光業を発展させるためには、より多くの人に注目してもらう工夫と、交通整備による利便性の向上が大切であると考えられる。より多くの人に注目してもらうために、多言語対応のPR動画を制作し、国内外に向けて積極的に発信することで、水戸市の魅力を広く伝えることができる。利便性向上の観点では、観光客の動線や交通手段を分析し、アクセスの改善を図ることで、訪れやすい都市づくりが可能となる。観光開発によって市民の生活環境が損なわれないよう、地域住民の声を反映した施策を進めることが求められる。今後さらに水戸市の観光業を発展させるにあたって、アナハイム市から学ぶことは多いと思う。今後も国内外の都市と比較しながら、水戸市の観光発展について考えていきたい。

多文化の風から学んだこと —Winds of Diversity—

西尾 真

Makoto Nishio

空港で初めて目に飛び込んできたのは大きな星条旗でした。その瞬間僕は初めて、「自分は本当にアメリカに来たのだ」と実感しました。今回の研修で得た最大の収穫は、多文化共生社会を肌で感じられたことです。特にそれを強く感じたのは、街を歩いているときでした。行き交う人々の姿は多様で、耳に入ってくる言葉も英語だけではありません。英語が飛び交う世界を想像していた僕は、その光景に大きな衝撃を受けると同時に、アメリカの大きな懐の深さを実感しました。

選抜試験の集団討論で「国際的な人物とは何か」と問われ、戸惑ったことを今でも覚えています。それ以来、研修を通して「国際人」について考え続けていました。そして僕は、異文化を尊重し、そこから学び、自らの糧にできる人こそが眞の国際人であると気づきました。私もそのような人間になりたいと考えています。

最後になりましたが、今回の貴重な機会を与えてくださった水戸市の皆さん、国際交流協会の方々、そして温かく迎えてくださったアナハイム市の皆さんに、心より感謝申し上げます。

The first thing I saw at the airport when I arrived in California was the large “Stars and Stripes”, and in that moment I felt that I had truly arrived in America.

The greatest outcome of this program was experiencing a multicultural society firsthand. I felt it most while walking through the city, where the people were diverse and the languages I heard were not only English. Expecting a world of only English speakers, I was surprised yet impressed by America’s openness.

During the selection exam, I was asked, “What does it mean to be an international person?” That question stayed with me throughout the program. I realized that a true international person is someone who learns from other cultures and respects them. This is the ideal I now hope to pursue.

Finally, I would like to sincerely thank the people of Mito City for this valuable opportunity, the members of the Mito City International Association, and the people of Anaheim for their warm welcome.

調査「アナハイムでの納豆の市場について」

西尾 真

① 調査動機

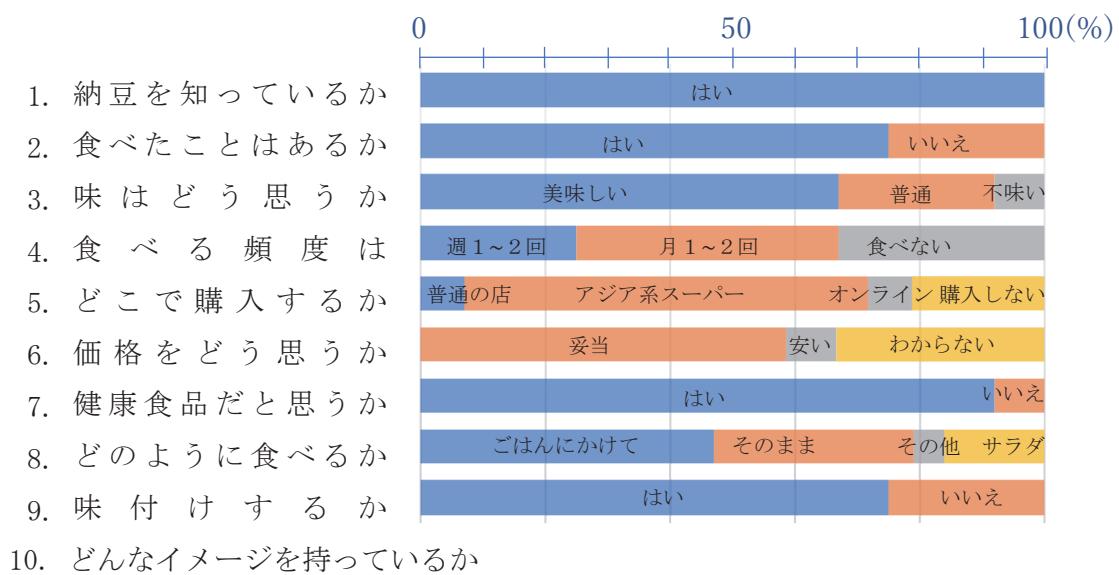
海外派遣が決まった際、自分が水戸市民であることを改めて強く意識した。水戸市は日本の伝統的な発酵食品である納豆の一大産地として知られている。そこで納豆が、異国之地・アメリカでどのように受け入れられているのかを知りたいと思い本調査を行った。

② 調査方法

・滞在中、現地の高校生やホストファミリーを対象にアンケート形式の聞き取り調査を実施した。

③ 結果

・アンケート結果： 有効回答 14 名 年齢 10 代～40 代



④ 考察

納豆の知名度が非常に高いことに驚かされた。納豆を食べる頻度や購入場所の傾向から、アジア系食品への関心の高いことがうかがえる。食べ方の多様性はアメリカらしい自由な発想を反映していると感じた。

納豆に対する否定的な意見の多くは強い匂いや独特な食感に起因していた。これらの要素を和らげるレシピや調理法を工夫することで、さらなる普及の可能性があるのではないかと思われた。姉妹都市である水戸は納豆の一大産地としてのブランディングの可能性を秘めていると考えた。

世界観を広げて —Expanding My Worldview—

横倉 凜々花
Ririka Yokokura

「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し」
—学ぶ事と考える事 どちらかではない、両方が大切。

孔子の言葉だ。私はこの旅で何を受け取るのだろう。未知への期待を胸にアナハイム市へと向かった。

10時間の時を経て降りた地は、想像よりもはるかに大都市で、賑やかなクラクションの音に、とんでもない速さの英語が飛び交い、壁には大谷翔平がド派手に描かれている。肩を撫でる空気はカラッとしていて、眩しい日差しを感じても、一切汗をかかず心地良い。移動中には、ありえないくらい細くて長い木を車窓から眺めた。交流センターに迎えに来てくれたホストファミリーの皆さんには、最初から笑顔で私たちを抱きしめてくれ、緊張した心が一気に安堵に変わった。それから毎日、アメリカ料理やメキシコ、フィリピン、いろんな国の料理を作ってくださり、本当に温かく親切にしてくださった。

消防署や学校を訪問させてもらい感じたのは、整った環境と、うらやましいくらい自由な校風や規則だ。ここでも人々は、とてもフレンドリーで笑顔が絶えない。

私は、楽しくて楽しくて仕方なかった。見るものも聞くものも肌で感じるものもすべてが異なるこの地で過ごした2週間は、今まで生きた中で最も濃い時間だった。発見や学びの種がそらじゅうに転がっていて、それを受け取ろうと五感が忙しく働いていた。旅の前と後で何が変わったか。何かが明らかにガラッと変わったと説明はできない。ただこれから的生活、たとえば、生徒会活動や就職活動、社会に出た時、この経験を断片的に思い出し、自分を、社会を、良い方向へ持っていく選択ができると思う。そのためにもより多くの人と考えや想いを交換できるよう、語学力を身につけ、世界観を持ち、日本にもたくさんの種を蒔ける人になれるよう、一日一日を大切にしたいと思った。

最後に、水戸市学生親善大使派遣事業に携わって下さった全ての方々に感謝を伝えたい。ありがとうございました！

Confucius once said, “Learning without thinking is useless. Thinking without learning is dangerous.” With this in mind, I began my journey to Anaheim. The city was bigger and more vibrant than I had imagined, and my host family welcomed me warmly. I learned from people, schools, and everyday life throughout my two weeks there. Everything was new, exciting, and full of discoveries. This experience gave me precious seeds for the future, and I want to grow by sharing them with others. I am deeply grateful to everyone who supported this program.

調査「水戸市とアナハイム市、人と人との距離や性格の比較」

横倉 凜々花

① 調査動機

一般的に日本人の性格や人に対する距離感等が、諸外国の人たちとは異なるという事をよく耳にするので、どういった点がどう異なるのかがとても気になり、知りたいと思った為。また日本とは違う他の国の方々の考え方や価値観を知る事で、新たな価値観や見方を今後活かして行くことができると思った為。

② 調査方法

- ・現地に住むホストファミリーや学生へのアンケート
- ・人々の観察を行う

③ 結果

- ・アンケート結果

設問【あなたが思う、 アメリカ人の性質と日本人のイメージについて】

①ホストファミリー：アメリカ人は言いたいことははっきり言い、自己表現をする。楽観的で自信があり、フレンドリー。日本人は礼儀正しく、よくお辞儀をする。働きすぎ。思いやりがある。シャイ。初対面の人にはあまりフレンドリーではない。
②現地に住むアナハイム学生：アメリカ人は個人主義で自己主張が強い。多様性を重んじる。そして同時に思いやりがある。日本人は、静かで親切。自己主張はあまりせず、控えめ。アメリカ人と対照的な部分は多くある。

- ・人々の観察(主観)

初対面の人にも親切な態度をとったり褒めたり、フレンドリーさを感じた。

日本人と比べ、はっきり物事を言う。声が大きく、表情が豊か。

④ 考察

今回の調査を通して、アメリカ人は自己主張やフレンドリーさを大切にし、日本人は礼儀正しさや控えめさを重んじるという、対照的な性質があることが分かった。背景には、アメリカの多様性を前提とした個人主義の文化、日本の調和を重視する文化があると考えられる。

一方で、両者には「相手を尊重する姿勢」という共通点も見られた。つまり違いはあっても、根底には、人と人がより良い関係を築こうとする思いがあることが分かった。

このことから、私はアメリカ人の積極的な自己表現を見習いつつ、日本人の持つ礼儀正しさや思いやりも大切にし、両方の良さを活かしたコミュニケーションをしていきたいと考える。

参考資料

— Background Materials —



- 令和 7 年度水戸市学生親善大使 募集要項
Application Guidelines for the 2025 Mito Student Ambassador Program
- 水戸市とアナハイム市の交流の歩みと概要
Overview and History of exchanges between Mito and Anaheim

令和7年度水戸市学生親善大使 募集要項

1 目的

市内の学生を水戸市の国際親善姉妹都市であるアナハイム市へ派遣し、海外でのホームステイを通して国際的な視野に立つ人材を育成するとともに、両市の相互理解と友好親善を深めます。

2 主催

公益財団法人水戸市国際交流協会、水戸市、水戸市教育委員会

3 事業概要

- (1) 派遣期間 令和7年8月8日(金)～8月21日(木) (14日間)
- (2) 派遣先 アメリカ合衆国 カリフォルニア州 アナハイム市
市民ボランティア*宅にホームステイ
(*ホストファミリーの経験が豊富であり、アナハイム市姉妹都市委員会が認める者)
- (3) 派遣人数 8名 (親善大使を率いる団長・協会職員を含む)
- (4) 親善大使としての活動内容

ア アナハイム市での活動

- (ア) アメリカ合衆国及びアナハイム市の歴史や文化等の研修
- (イ) 英語研修
- (ウ) 関係機関、施設等の訪問・見学
- (エ) 水戸市の紹介
- (オ) ホームステイを通しての市民間交流
- (カ) 姉妹都市交流の推進、市役所表敬訪問
- (キ) その他

イ 事前研修 アナハイム市での活動を効果的に行うため、事前研修を行います。

ウ 事後研修及びその他の活動

アナハイム市での活動内容を報告書にまとめ提出するとともに、今後、公益財団法人水戸市国際交流協会及び水戸市の実施する国際交流推進事業に積極的に参加していただきます。

4 募集人数

6名程度 ※受入れ側の状況により変更する場合があります。

5 応募資格

下記のすべての資格・条件を満たさない場合は、申込みを受けません。英検等の資格は必要ありません。

- (1) 令和7年4月1日現在、満13歳以上17歳まで(平成19年4月2日～平成24年4月1日生まれ)であること
- (2) 中学校、高等学校、高等専門学校などの学校教育法第一条に定める学校に在学中であること
- (3) 本人又は本人と生計を一にする家族が水戸市内に住んでいること
- (4) 協調性に富み、事業計画に従って規律ある団体行動及び生活ができること
- (5) 派遣前後に実施される研修等に参加し、派遣後も公益財団法人水戸市国際交流協会及び水戸市の国際交流推進事業に積極的に参加できる者
- (6) 過去に水戸市学生親善大使としてアナハイム市を訪問していないこと

6 応募方法

(1) 提出書類

※ア及びイは、応募者の自筆とする。ただし、アの裏面(承諾事項)は保護者の自署とする。

※提出書類は、すべて黒のボールペンで記入すること。(ただし、イはえんぴつ記入可)

ア 参加申込書(様式第1号) 1通 (裏面の承諾事項を含む)

イ 作文 【題名】「水戸市学生親善大使となって何を学びたいか」

【規格】 A4規定用紙を使用、横書800字以内 ※学校名、学年、氏名を必ず記入すること

ウ 本人と生計を一にする主たる納税者の運転免許証コピーおもて・うら両面(現住所確認のため)

※運転免許証が無い場合は、住民票のコピーを提出してください

(2) 提出期間 令和7年5月1日(木)～5月20日(火)

(3) 提出方法 直接窓口に持参または郵送すること。※郵送の場合は必着

(4) 提出先 公益財団法人水戸市国際交流協会

7 選考及び決定

選考は、当協会の選考要項に基づき、選考委員会が行います。

選考結果は、申込書に記載のEメールアドレスに通知します。

(1) 第1次選考 書類審査

第1次選考の結果は、応募者全員に5月31日(土)までに、メール通知します。

(2) 第2次選考 面接（簡単な英会話を含む）、集団討論

ア 期日 令和7年6月8日(日)

イ 時間 午前9時～午後2時（予定）

※応募人数により前後することがあります。詳細は、第1次選考結果の通知メールにてお知らせします。

ウ 場所 水戸市国際交流センター 第2次選考の結果は、6月15日(日)までに、メール通知します。

8 スケジュール

6月 29日（日）午後2時～8時	アナハイム市学生親善大使との交流会、同学生を囲んでのサヨナラパーティー（予定）
7月 6日（日）午後1時30分～5時	結団式、渡航説明会等、第1回事前研修
7月 20日（日） 7月 27日（日） 8月 3日（日）	第2回～第4回事前研修 (水戸市・アナハイム市の概要及び英会話等)
8月 8日（金）～ 8月 21日（木）	アナハイム市へ派遣（ホームステイ）
9月 7日（日）午後1時30分～5時	事後研修（振り返り、報告書作成の説明等）
9月～11月	報告書作成

※場所：水戸市国際交流センター（アナハイム市派遣を除く）

9 費 用

この事業に要する費用のうち、次に掲げる費用は、参加者の個人負担とします。

(1) 水戸市～アナハイム市間の交通費等：個人負担約30万円程度(総額に対して協会が一部を負担しています。)

※現地での活動費(300USドル程度)、燃油サーチャージ、ESTA取得料込み。

※燃油サーチャージや現地活動費（日本円換算）は、円相場等により変動する可能性があります。

(2) 自由行動時の個人的な費用

(3) 海外旅行保険料

(4) その他疾病又は傷害の治療費用

10 親善大使の取消し

(1) 親善大使として決定された後であっても、不適格と認められる行為又は事実があった場合には、資格を取り消すことがあります。

(2) 出発後の取消しは、団長が行います。この場合、親善大使を直ちに帰国させるものとし、帰国に要する費用は、本人の負担とします。

11 旅行の取消し

決定後、事業への参加を取りやめたときは、旅行約款に基づく取消料を負担していただきます。

12 個人情報の取扱い

応募書類に含まれる個人情報については、当協会の個人情報保護規程に基づき厳重に管理し、親善大使選考及び選考に付随する業務のために利用します。

13 旅行取扱い

本事業における旅行部分については、当協会と取扱旅行会社の受注型企画旅行契約により実施します。

応募先/問合せ先 公益財団法人水戸市国際交流協会

〒310-0024 水戸市備前町6番59号

水戸市国際交流センター内 (開館時間 午前9時～午後9時 ※月曜日・4月29日・5月6日・7日は休館)

TEL : 029-221-1800 E-mail : mcia@mito.ne.jp



ホームページ

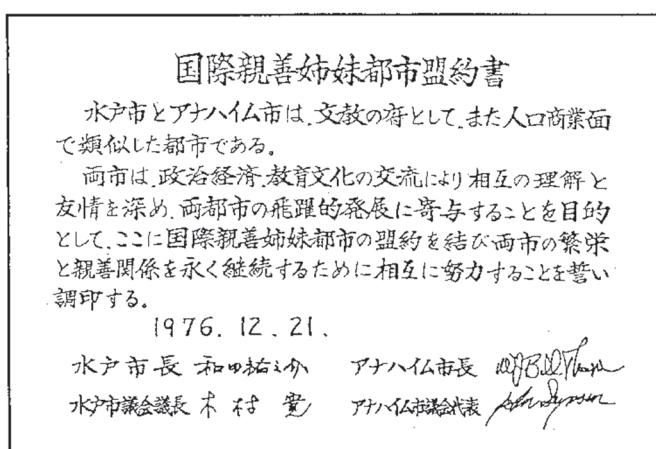
※本派遣事業は渡航者の安全確保を最優先させますので、今後の国際情勢によっては、応募後であっても中止する場合があります。

水戸市とアナハイム市の交流

水戸市とアナハイム市の交流は、昭和 49 (1974) 年アナハイム市在住の水戸出身の実業家が、恩師をアナハイム市に招待したことを契機として始まりました。その後のさまざまな人的交流が実を結び、アメリカ合衆国建国 200 年祭にあたる昭和 51 (1976) 年 12 月 21 日、両市は国際親善姉妹都市を締結しました。姉妹都市となった両市は、幾多の交流活動を重ね今日に至っています。

学生親善大使の往来について、水戸市からアナハイム市への派遣は、昭和 63 (1988) 年の第 1 回以来、今回の派遣を含め 31 回実施され、計 522 人がアナハイム市を訪問しました。アナハイム市からは、昭和 60 (1985) 年を第 1 回として、これまで 32 回派遣され、計 142 人が水戸市を訪問しました。

このほか、水戸市使節団のアナハイム市への派遣は、昭和 51 (1976) 年の姉妹都市調印式を第 1 回として 34 回行われ、のべ 962 人がアナハイム市を訪問しました。アナハイム市からの使節団は昭和 51 (1976) 年を第 1 回として、これまで 21 回派遣され、のべ 440 人が水戸市を訪れました。(令和 7 年 9 月 1 日現在)



—両市のプロフィール—

	水戸市 (Mito)	アナハイム市 (Anaheim)
人口	265,681 人 (2025 年 9 月 1 日現在)	340,512 人 (2025 年現在)
面積	217.45 km ²	130.7 km ²
標高	最高 160.0 m 最低 000.1 m	最高 52 m (170 ft) 最低 37 m (120 ft)
緯度	北緯 036 度 21 分 57 秒	北緯 033 度 50 分 10 秒
経度	東経 140 度 28 分 17 秒	西経 117 度 53 分 23 秒
気候	平均気温 : 16.2 °C 年間降水量 : 1,548 mm 温暖湿潤気候	平均気温 : 21 °C 年間降水量 : 249 mm 地中海性気候
市の花	ハギ (Bush Clover)	キンセンカ (Calendula)
市の木	ウメ (Plum)	マグノリア (Magnolia)
市制施行	1889 年 (明治 22 年)	1857 年

(気象庁 2024 年の Data)

編集後記 —Editorial Note—

今回のアナハイム市への派遣では、語学だけではなく水戸市とアナハイム市の社会の違いについても学ぶことができました。消防署では実際に防火服を着用し、ホースから水を出す体験を通して、アナハイム市民の安全を守るために働く方々の大変さを少しだけですが理解することができました。アナハイム市でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

During our time in Anaheim, we had the opportunity not only to learn English but also to find out about the local culture. At the fire station, we had a chance to try on firefighting gear and handle a hose. This gave us a small insight into the challenges faced by the people who work hard to protect the everyday lives of Anaheim citizens. We are truly grateful to everyone in Anaheim who took such good care of us.



令和7年度水戸市学生親善大使報告書

編集委員長 西尾 真
編集委員 横倉 凜々花
海老根 理咲
大津 秋仁
田畑 未来
南指原 礼人

ANAHEIM 2025

令和 7 年度水戸市学生親善大使派遣の記録

編集 令和 7 年度水戸市学生親善大使

発行 公益財団法人水戸市国際交流協会